

- 問1 モンゴル周辺の地域において、人々が伝統的に「ゲル」と呼ばれる移動式住居を用いながら「遊牧」を行ってきた理由として、現地の自然環境と生活の因果関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
1. 森林を焼き払った後の灰を肥料として利用する農法において、数年ごとに耕作地を変えなければならないため。
 2. 季節風（モンスーン）の影響で夏に激しい洪水が起こるため、標高の高い場所へ避難しやすい住居が必要だったため。
 3. 年間を通じて乾燥しており、家畜が食べる草や水を使い果たす前に次の場所へ移動し続ける必要があるため。
 4. 地中海性気候のように夏に乾燥するため、涼しい山岳地帯へ家畜を移動させる「移牧」を行う必要があるため。
- 問2 トルコの宗教や国際組織への加盟状況について述べた説明として、正しいものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
1. 国民の多くはキリスト教を信仰しており、ヨーロッパ連合（EU）に加盟している。
 2. 国民の多くはキリスト教を信仰しており、ヨーロッパ連合（EU）には加盟していない。
 3. 国民の多くはイスラム教を信仰しており、ヨーロッパ連合（EU）に加盟している。
 4. 国民の多くはイスラム教を信仰しており、ヨーロッパ連合（EU）には加盟していない。
- 問3 アジアの険しい山間部において、平地が少ない地形条件を克服するために、山の斜面を等高線に沿って階段状に切り開いて作られた水田を何と呼びますか。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
1. ブランテーション
 2. オアシス
 3. ボルダー
 4. 棚田
- 問4 南アジアの宗教分布を示した資料において、インドの国土の大部分を占めている、人々の生活習慣や社会構造と密接に結びついた宗教を何というか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. ヒンドゥー教
 2. イスラム教
 3. 仏教
 4. キリスト教
- 問5 世界のアルミニウム産業に関する次の説明のうち、原料の産出と製品の生産動向について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2016年 茨城県公立入試 類似)
1. オーストラリアはボーキサイトの主要な産出国であるが、2000年代以降は中国での生産が減少したため、代わってアルミニウム精錬の全工程を自国内で行うようになった。
 2. ボーキサイトは主に北米やヨーロッパで産出されており、それを安価な労働力が豊富な中国へ輸送してアルミニウムへと加工する国際分業が確立されている。
 3. 原料であるボーキサイトの産出はオーストラリアやブラジルなどで盛んだが、製品の精錬においては、2000年代に中国が急速に生産量を伸ばし世界シェアの約4割を占めるに至った。
 4. アルミニウムの原料は希少なため、2000年から2010年にかけて世界全体の生産量は減少しており、現在はリサイクルによる生産が主流となっている。
- 問6 インドで最も多くの人々に信仰されているヒンドゥー教の文化や社会への影響について、正しい説明を選びなさい。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 牛を神聖な動物として大切にする習慣があり、歴史的にカースト制度と呼ばれる身分階層が社会に強い影響を与えてきた。
 2. 特定の神を崇拝せず、厳しい修行を通じて悟りを開くことを重視し、中国や日本へと伝播した。
 3. 唯一神を信仰し、すべての人間は神の前で平等であると説くことで、地中海沿岸から世界中に広まった。
 4. 豚肉を食べることを禁忌とし、一日に数回の礼拝を行うほか、ラマダンと呼ばれる断食の期間を設けている。
- 問7 中国では、急速な経済成長に伴ってエネルギー資源の需給バランスが変化しています。2010年には101%であった石炭の自給率が、2014年には94%まで低下した主な要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 太陽光や風力などの再生可能エネルギーへの転換が進み、石炭の生産量と消費量がともに激減した。
 2. 石炭の国内生産量は増加していたが、経済発展による石炭の消費量の伸びが生産量を上回るようになった。
 3. 国内の石炭資源が枯渇して生産量がゼロに近づいたため、必要な全量を輸入に頼るようになった。
 4. 深刻な環境汚染を解決するために、石炭の国内生産量を2010年以前よりも大幅に削減した。
- 問8 東南アジアの国々の中で、人口は約530万人と周辺のフィリピンやベトナム、マレーシアに比べて少ないものの、経済的な豊かさを示す「1人あたりのGDP（国内総生産）」がこれらの国々を大きく上回り、最大となっている国はどこですか。また、その国の輸出入において第1位の貿易相手となっている国を答えなさい。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
1. 国名：シンガポール、貿易相手国：日本
 2. 国名：マレーシア、貿易相手国：ベトナム
 3. 国名：シンガポール、貿易相手国：マレーシア
 4. 国名：フィリピン、貿易相手国：日本
- 問9 世界の自動車生産の推移に関する記述として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
1. インドは21世紀に入り急速に成長し、2015年以降は中国の生産台数を上回って世界最大となった。
 2. 中国は2000年代後半にアメリカ合衆国の生産台数を追い抜き、その後も2500万台を超える規模まで成長した。
 3. アメリカ合衆国の自動車生産台数は、2000年から現在に至るまで常に世界第1位を維持している。
 4. 21世紀の自動車生産において、中国がアメリカ合衆国を生産台数で上回った事実はまだない。
- 問10 インドプレートとユーラシアプレートがぶつかり合うことで形成された山脈の周辺地域において、現在も見られる自然現象や地形的特徴についての説明として最も適切なものを選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. プレーートの運動が完全に停止しており、地殻変動や地震は全く発生しない。
 2. プレーートの運動が現在も継続しており、地殻変動や地震活動が活発である。
 3. 海洋プレートが深く沈み込むことで、沿岸部に巨大な海溝が形成されている。
 4. 長年の侵食作用を受け続けた結果、なだらかな丘陵地帯に変化している。
- 問11 タイ王国の産業と人口密度の関係について述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれか。 (2023年 山形県公立入試 類似)
1. 国土の大部分が乾燥した高原地帯であるため、灌漑施設が整ったマレー半島沿岸部のみに限定して人口密度が高くなっている。
 2. 中継貿易の拠点として発展した歴史から、国境付近の港湾都市にのみ労働力が集中し、内陸部の人口密度は極めて低く保たれている。
 3. 社会主義体制のもとで計画的な農村開発が行われたため、都市部よりも山岳地帯や国境付近の人口密度が意図的に高く設定されている。
 4. 豊富な水資源を利用した稲作や、日系企業の進出による自動車産業の発達が、チャオプラヤ川流域などの平野部における高い人口密度を支えている。
- 問12 西アジアの産油国では、人口ピラミッドにおいて二十代から五十代の男性の割合が女性に比べて突出して多く、左右が著しく非対称な形態となることがあります。このような人口構成が形成される主な背景として最も適切なものはどれですか。 (2023年 北海道公立入試 類似)
1. 国内の農村部から都市部への人口移動が急速に進み、都市部に居住する独身男性の割合が急増しているため
 2. 高度な医療技術の普及によって、働き盛りの男性の平均寿命が女性に比べて極端に伸びる現象が起きているため
 3. 伝統的に多子社会であり、若年層の人口爆発によって男性の出生率が女性を大幅に上回る状態が続いているため
 4. 豊富な石油資源の収入を背景とした開発ラッシュにより、建設現場などで働く外国人労働者が大量に流入しているため